



## 幸せな人生を求めて…

佐々木 里保

(男鹿市地域おこし協力隊)

### ○ 地域おこし協力隊になったきっかけ

私は東京都で生まれ育ち、地域おこし協力隊として男鹿市に移住するまでの7年間、アパレル系の雑貨デザインの仕事をしていました。幼少期からの夢を叶えてデザイナーになったのはいいものの、実際に働いてみると、アパレル業界ではモノを作っては売れ残り、それを捨てるというサイクルが当たり前でした。「この業界で働き続けることが、果たして本当に自分の人生の幸せにつながるのだろうか？」という疑問を抱きながら忙しく働く毎日は、次第に憂鬱なものになっていきました。

そんななか、私が初めて秋田県を訪れたのは、男鹿市出身であった夫と出会い、同棲前に夫のご両親に挨拶するためでした。秋田市から男鹿市へ向かう道中で見た、広い空に海や山、田んぼが広がる光景は、東京生まれの私にとってはすべてが非日常的で新鮮で、とてもリフレッシュできたことを覚えています。

夫と出会う前から地方移住への憧れがあった私は、男鹿市を何度か訪れるうちに「ここで暮らしたい」という想いが芽生えていきました。しかし、その気持ちを初めて夫に打ち明けた時は、「今すぐには考えられない」と言われてしまい、その後1年間ほど夫婦で押し問答が続きました。

状況が一変したのは世間がコロナ禍になった頃でした。お互いに自宅でリモートワークをするようになり、夫から「リモートで仕事ができるなら秋田に行ってもいいかもね」と言ってくれたことで、そこから急いで移住へと動き出し

ました。

どうせ移住するなら、その地域でしかできない、今までとは違う仕事がしたいと思っていた私は、東京の移住相談窓口で男鹿市の地域おこし協力隊の募集があることを担当者から教えていただき、とても楽しそうだなと思い応募することを決めました。



(寒風山からの景色)

### ○ 1年目

私のミッションは男鹿市の移住定住促進のために情報発信をすることです。それまでの男鹿市の先輩隊員が発信を続けてきてくれたFacebookのページを引き継ぎ、さらに新しくInstagramとYouTubeのアカウントも作成し運用を始めました。

移住者目線で感じる男鹿市の魅力を、市外や県外の方へ向けて自分の言葉で具体的に伝えることで、まずは現在の男鹿市を知ってもらうことから始めました。

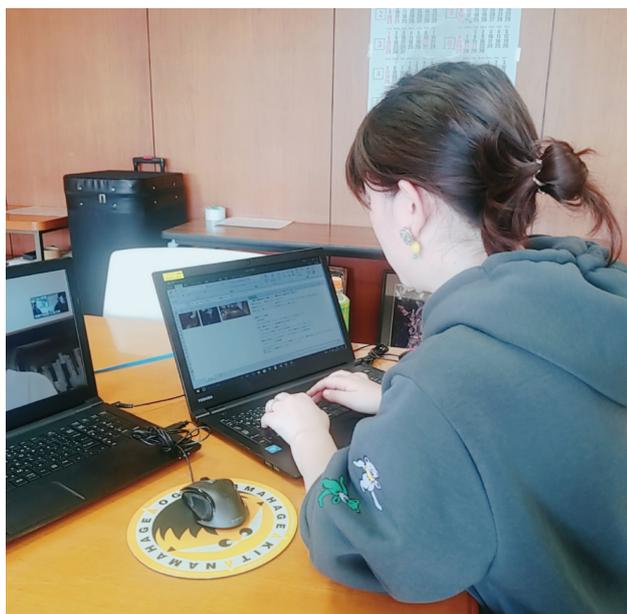
その他の活動としては、ノベルティの作成や

関係人口・移住関連イベントへの参加、市の移住・定住ポータルサイト「おが住」の開設にも関わらせていただきました。



(おが住 HP)

Instagramに関しては途中で新たに着任した仲間の力添えもあり、開設から4年が経った現在では、約2,900人がフォローをしてくださっています。男鹿市出身の県外在住者の方々から、「男鹿市がどんどん新しくなっていく姿を見られるのが嬉しい！」という声をいただいたときは、大きな喜びとやりがいを感じました。一方で、コロナ禍によりほとんどのイベントが開催中止、またはオンライン開催への変更を余儀なくされたことで、移住相談や男鹿市のことを知ってもらう機会を損失し、厳しさを感じた1年でもありました。



(オンラインイベント参加中の様子)

## ○ 2年目

2年目に入り2か月が経過したところで、出産のため休暇を取得しました。休暇中、育児に奮闘するなかで、今まで男鹿市の魅力を発信してきたけれど、子育てに関する情報発信は十分でないということに気がつき、復帰後すぐに市職員に申し出て、新たに男鹿市で妊産婦から子育て期の家族へ向けたワンストップの支援を行っている「男鹿市こども家庭センター」の情報発信を手伝わせていただくことになりました。男鹿市で実際に自分が子育てをしている経験を活かし、移住者ファミリーがどういった情報をSNSで見られたら役に立つか？また、移住前に男鹿市での子育てをイメージすることができる情報であるか？という点にこだわり、現場の雰囲気が伝わる発信を心がけました。

また、私はなぜか県内の協力隊仲間から活動に関する相談を受けることが多かったため、「秋田県地域おこし協力隊ネットワーク」に何かお手伝いができないか申し出て、こちらのSNSの運用も担当させていただくことになりました。

さらに、おしゃべりな性格を買っていただき、あるラジオ番組内の「協力隊のシン・チカララジオ」というコーナーにコメンテーターとして隔週で参加させていただけることになりました。このコーナーでは、ゲストとして県内の協力隊や移住者をお呼びして、その活動や個人について掘り下げるというもので、時には自身の活動内容についても織り交ぜてお話をいただくこともあり、コーナーを通じて地域おこし協力隊制度や自分の関わる方々について知ってもらえることに、協力隊本来の活動と同様に責任とやりがいを感じました。



(ラジオ出演時の様子)

こうした活動の情報発信を積極的にしているためか、ありがたいことに取材をしていただく機会も増え、なかでも総務省主催の「地域おこし協力隊全国オンラインイベント」のゲストに、何千人もいる現役隊員やOB・OGの中から選ばれたことは、我ながら誇らしく思いました。男鹿市のPRにもつながることなのでとてもありがたい機会でしたし、この実績のおかげで、秋田県の社会教育委員にも選んでいただきました。

### ○ 3年目

いよいよ退任後について本格的に考える時期になってきました。就職と起業の両方を視野に入れ、関連のセミナーや研修を受けることも増えました。起業したとして、果たしてそれ一本で生活が成り立つのかという不安もありましたが、前職でのキャリアを活かしてみたいという想いもあり、デザインに関する起業についても検討している状態です。今までも活動の中でチラシや名刺のデザイン依頼をいただいておりますが、3年目は一步踏み込んでロゴ作成などもお試しとして経験させていただきました。

そして退任後も情報発信は継続してできるように、協力隊としてはあるものの個人のSNSアカウントを始めることにしました。

2年目に引き続き取材していただく機会も多

く、3年目はそれに加えてコメンテーターや講師、さらには司会をやらせていただく機会もあり、本当にありがたい限りでした。

そしてこの頃になるとコロナ禍も落ち着き、1年目には参加できなかった移住相談イベントなどで、現地で直接、移住希望者とお話することができるようになりました。イベント会場で男鹿市のブースを訪れた方が、実際に男鹿市の移住体験ツアーに参加してくださったことや、新たな協力隊として仲間になってくれたことは本当に嬉しかったです。

本来であれば3年の任期で退任を迎えるはずでしたが、コロナ禍に着任した隊員に限っては任期の延長制度があり、私はコロナ禍で思うように活動できなかったこと、対面での移住相談対応をもっと続けたかったため、約1年2か月の延長をさせていただくことになりました。



(大阪での移住相談イベントの様子)



(秋田県地域おこし協力隊研修@にかほ市)

## ○ 4年目

そしていよいよ今年、最後の1年に突入しました。この1年は退任後の定住に向けた活動に重きを置きたいと考えているので、まずはこれまでの活動内容をセーブすることにしました。具体的には2年目から携わらせていただいていた子育て情報の発信と、ラジオコメンテーターのお仕事を令和6年度いっぱいまで退かせていただくことにしました。いずれの活動も、協力隊をやっていなければ関わらなかったことで、任せただけのことでは大変光栄でしたし、自分自身にとっても学びのある活動だったため、携わることが出来たことにとっても感謝をしています。

また最終年度は協力隊としての勤務日数についても減らすことにしました。業務量を調整し、その空いた時間で、男鹿市の空き家バンクに関わる副業をしたいと考えています。

退任後にむけた活動もちろん重要ですが、最後の仕事として、任期中に今まで男鹿市にはなかった「移住ガイドブック」の発行をしてから退任したいと考えています。自分に関わってくくださった方々や男鹿市へ少しでもお礼ができたらと思い、完成に向けて現在制作中です。



(八峰町地域おこし協力隊の活動視察)



(あきた元気ムラ大交流会2024inおが)

## ○ 退任後に向けて

前述のとおり、退任後についてはまだ模索中の段階です。自分のこれまでのキャリアから考えると、デザインや情報発信の分野での起業が現実的なのかなと感じますが、他の可能性や選択肢について、もう少しだけ悩んでみたいと思います。いずれにせよ男鹿市に定住できる形を見つけられるよう、任期最後の1年を有効に使いたいです。

東京で疲れ果て未来に希望が持てなかった私に、新たな扉を開いてくれた男鹿市と地域おこし協力隊。ここで得た経験や知識、人脈やカルチャーショック等、いろんな視点から考えるきっかけをくださったすべてのことに心から感謝しています。このような任期のある仕事に就くのは初めてで、退任の日が決まっているということは必ず次が決まっていないといけないのではないかというプレッシャーも感じてしまいましたが、そもそも地方移住という生き方を選択した当初のマインドを忘れず、自分が心から幸せだと思える生き方を実現するため、残された任期中は、丁寧に日々を過ごしながらか自分と地域に向き合っていきたいと思います。